

(別紙様式4) **令和6年度学校評価学校関係者評価報告(こども園)** こども園名〔京丹後市立丹後こども園〕

こども園経営方針（中期経営目標）		前年度の成果と課題		本年度こども園経営の重点（短期経営目標）
- 生活や遊びの中で様々なことに心を動かし、豊かな園児を育む。 - 地域に愛され、保護者に信頼される園づくりを進める。 - 職員同士が互いに学び合える組織づくりを進める。		○生活の中で一人一人の園児の声を聞き、気持ちに寄り添うことで自分の思いや考えを伝えようとする園児の姿がたくさん見られるようになった。 ○園の生活や活動の様子を動画やクラスだよりなどでアプリを使ってタイムリーに知らせてきたことで保護者と連携して教育・保育を進めることができた。 △正職員は、職員会議や日々の保育の振り返りをする中で援助や環境について話し合う機会をもつことはできたが、会計年度職員に細かく伝えることができないこともあり、実践につながらないこともあった。		「やってみたい！やってみよう！いっぱい遊んでつながって」～一人一人が輝き、育ち合えるこども園をめざして～ - 様々な人やものに関わったり触れ合ったりしながら、豊かな心を育てる。 - 友達と力を合わせたり異年齢児との関わりを楽しんだりしながら集団の中で育ち合える環境を設定する。 - 職員の連帯・協働意識の高揚を図り、「チーム」で取り組む体制をつくる。
評価項目	重点目標	具体的方策	成果と課題（自己評価）	学校関係者評価
保幼小中一貫教育の推進(保幼小接続)	『丹後学園』間の連携 - 幼児期の学びがどのように深まり、広がっていくのかを見通す。 - 児童期の育ちを見通した教育課程を編成する。	- 小学校との交流を通して幼児と児童の実態を知り、子どもの育ちへの理解を深める。 - 研修会や連絡会等を通して幼児教育と小学校教育の指導方法の違いを知り、互いの教育への理解を進め、幼児や児童の発達を捉えた環境の構成や教材の工夫をする。 - 小学校への滑らかな接続となるよう、スタートカリキュラムやアプローチプログラムを見直し、実践につなげていく。	○小学校との交流や授業参観、事後研究会等に参加することによって、小学生の実態を把握したり指導内容や指導方法について理解したりすることができた。 ○園の公開保育では、小中学校の先生に参加してもらい話し合う機会をもったことで幼児教育への理解を進めることができた。 ○子どもの実態や支援の仕方について、小学校と何度も連絡を取り合ったり話し合ったりすることで、子どもも保護者も安心して学校生活を送ることができた。	数年前と比べると交流の回数や内容が変わり連携が進んでいることを感じた。
教育課程	教育・保育活動の充実 夢中になって生活や遊びに向かおうとする園児を育てる。 ・心身共に健康な園児の育成	- 園児が興味をもって、自分から素材・用具等に関わることができるよう環境を整え、援助の方法を工夫する。 - 様々な人やもの、自然との関わりの中で見たり触れたりする機会をもち、不思議さや自分の思い通りにならないもどかしさ、思いやりの気持ちなど、多様な感情体験ができるようにする。 - 園児一人一人の個性や発達に即した多様な経験を重ねる中で、十分に自己発揮して遊ぶ喜びや達成感を味わい、自信をもって行動できるように環境を整える。 - 自分でできることの範囲を広げながら、個々に合わせて援助し、生活に必要な基本的生活習慣や	○園児の興味・関心や発達に合わせて環境を整えることで、興味をもったものを自ら遊びに取り入れたり繰り返して遊んだり試したりする姿が見られた。 ○異年齢での活動を積み重ねることで、小さい組の友達に対して優しく声をかけたり手をつないだりする姿が多く見られるようになった。 ○園児一人一人の個性や発達に即した環境や活動を準備することで友達と一緒に試したり工夫したりして好きな遊びを十分に楽しむことができ、達成感を味わい自信をもって行動する姿が増えてきた。 ○年に2回生活点検をしたり、登園が遅い家庭には懇談をして生活リズムを整えることの大切さについて伝えたり	- 職員の仲の良さが子ども達の育ちにつながっている。 - また、昨年と同じではなく園児の姿に合わせて活動の内容も変化している。

	・ 自他共に大切に思える園児の育成	・ 態度を身に付けることができるようにする。 ・ 体を動かす気持ちよさを感じられるよう多様な動きができる機会や場所、環境を充実するようにする。 ・ 自分の思いを表現し伝わる喜びを感じられるように、全体場で発表したり、友達同士で話したりする機会をつくる。 ・ 様々な年齢や立場の人との交流を実施し、ときどきわくわくするような感情体験が味わえるようにする。 ・ 生活や遊びの中で、自分の思いや考えを伝える、相手の話を聞く、受け止めるなどの体験を通して互いを認め合い大切にすることを育てる。	・ したことで、早く登園する園児が増え生活習慣の見直しにつながった。 ○ 天候に応じて園庭や室内でマラソンやサーキットを継続して続けることで多様な動きを経験することができ、体づくりにつながった。 ○ 一人一人の思いを読み取り言葉に変えて伝えることで自分から担任に伝えたり友達同士で話したりする姿が多く見られるようになってきている。 ○ クラスの担任が一人一人の思いを丁寧に読み取りじっくり関わり、その思いをクラス全体に伝えることで子ども同士で認め合う姿が広がりつつある。	・ 誰に対しても挨拶をしたり、話しかけられると自分の言葉で答えたりする園児が増えたことはとても嬉しく感じる。
子育て支援	・ 保護者と連携し、それぞれの家庭に合わせた支援をする。 ・ 支援を要する園児に対しての支援策について園全体で考える。	・ 子どもの育ちや乳幼児期の教育・保育への理解を深める機会をつくり、園児の健やかな成長を支援する。(個人情報には十分留意しつつ、園だよりクラスだより、アプリを使つての動画配信等) ・ 懇談会等で発達状況を伝えたり家庭の様子を聞いたりしながら、園児の課題や今後の方向性について保護者と共通理解し、医療や療育などの関係機関と連携し、一人一人に合わせた支援ができるようにする。	○ 登降園の際に園児の様子を詳しく伝えたり、たよりやアプリなどを使つての動画配信を積極的に行ったりすることで、園児の様子や成長している姿を共有することができた。 △ 懇談会や登降園の際に丁寧に園児の様子を伝えたり、懇談をしたりして担任と保護者と共通理解することはできたものの、クラス懇談会を実施できなかったため、保護者同士をつなぐ機会を十分に設けることができなかった。	・ アンケートの結果からも保護者との関係がうまくいっていると感じる。 ・ 日頃から職員が丁寧に関わっているからだと思う。
(A) 研修(教員の資質向上・人権教育)	・ 資質向上を目指し、意欲的に取り組もうとする職員を目指す。 ・ 保育研究を継続的に実施し、指導改善に生かす。	・ 園児一人一人に応じた指導をするため、各クラスの職員同士が園児の発達課題を共有し、援助や環境の工夫について話し合う機会をもつ。 ・ 職員同士が支え合い、協力し、高め合える職場環境や子どもの姿を自然に語り合えるような雰囲気づくりをする。 ・ 全職員が研究テーマの目的・仮説・方法について具体的に理解できるよう研修の場をもち、教育・保育が意欲的に進められるようにする。	○ 付箋を用いてのワークショップ形式で月反省を行うことで、新人職員も自分の意見を発表する機会がもて自信につながった。また、援助や環境について職員同士で意見を出し合う姿が多く見られるようになった。 △ 日々の業務に追われ、十分な研究の為の時間をつくることが難しかった。 ○ 職員同士が、活動や子どもの様子について語り合ったり相談し合ったりする姿が多く見られるようになった。また、職員同士が互いを認め合い思いやる姿を見せる事で、園児の中にも遊びや生活の中で励ましたり認めたりする姿がたくさん見られるようになった。	・ 長時間園児がいる中で研修したり保育を振り返る時間をつくることは難しいと思うが、日頃から園児の様子について語り合うだけでも学びになっているのではないか。
次年度に向けた改善の方向性	・ 一年生との交流や小中学校の教員との交流の内容を検討し、また公開保育を通じてより子どもの育ちへの理解を深められるようにする。 ・ クラス懇談会や参観を通じて保護者同士がつながることができるような機会をつくる。 ・ 園児の姿や活動を振り返り、子どもの発達や内面について園内研修を重ね、より深く理解できるようにする。			